



Title	はじめに
Author(s)	本堂, 武夫
Citation	低温科学, 64, 1-1
Issue Date	2006-03-22
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/8338
Type	bulletin (article)
File Information	TEION001.pdf



[Instructions for use](#)

はじめに

低温科学研究所の紀要「低温科学」は、1944年12月に第1輯が岩波書店から刊行されている。以来さまざまな変遷を経て、本号でVol.64になる。今日、低温科学というと絶対温度で0 Kに近い極低温の世界を思い浮かべる向きが多いと思うが、本誌の低温科学は、水の融点0°C近辺の科学である。すなわち、惑星や地球システムの成り立ちに欠くことのできない水や氷にまつわる様々な自然現象、寒冷圏の科学が、本誌の対象である。

かつての「低温科学」には、雪氷や低温下の植物、昆虫に関する優れた原著論文が掲載されていた。しかし、それぞれの分野で英文専門誌の比重が増すにつれて、原著論文を「低温科学」に掲載する意義が薄れて、1996年以降は、流氷データや積雪データなどの資料集のみが刊行されてきた。ちょうどその時期から、低温科学研究所は全国共同利用研究所として、毎年様々な分野ごとに共同研究や研究集会を開催するようになった。中でも、研究集会は、“オホーツク海”や“光合成”“惑星系”などを主題に普段の所属学会の枠を超えて全国の研究者が一同に会して議論するユニークな場として定着してきた。2005年に全国共同利用研究所として10年が経過したのを機に、「低温科学」を大幅に刷新して、このような共同研究活動を紹介することにした。これまで実施してきた共同研究や研究集会の中から、各号ごとに主題を決めて、その分野の最先端の研究あるいは著者自身の研究を専門の違う研究者にも分かるように紹介する、解説に重点をおいた誌面作りを目指すことにした。

本号の主題は、「低温科学」リニューアル第一弾として、「H₂Oが拓く科学フロンティア～氷と水とクラスレート・ハイドレート」である。そもそも、地球の誕生から今日の地球環境の形成に至るまで、水の重要さは言を待たないし、水や氷に関しては膨大な研究の蓄積もある。それにもかかわらず、なおフロンティアと言える分野であり得るのか。教科書にはまだ書かれていない科学の最先端を見ていただきたい。

「低温科学」2005年度編集責任者

本堂 武夫
